

これらの要因のうち、人格的要因は、それだけでも学業不振・不適應の原因になりうるが、環境的要因のほとんどは、それが直接に不振や不適應を起こすというよりも、まず子どもたちの人格面に影響を与えて、その結果として間接的に学業不振・不適應をひき起こすと考えられる。また、これらの要因はいくつか同時に働いていることが多い。そこで、ひとりひとりの子どもたちについてその原因をさぐり、指導方針をたてるには、観察・諸検査・面接等から総合的な判断が必要になってくる。少ない資料で断定することは危険である。

3. 個人理解と学業不振・不適應の診断

学級担任が何が原因でこの子が学業不振・不適應を起こしているのかをとらえ、治療的指導や解消のための援助指導を行うためには、個人理解が何よりも大切といえる。個人理解には

- ① 主観的理解（第1印象、特徴的行動は握、等）
- ② 客観的理解（行動観察、心理検査、傾向調査等による資料分析、等）
- ③ 共感的理解（受容的面接面談による記録資料の整理、等）が考えられる。

原因は握は、上記の三つの理解資料を総合・統一してはじめて成り立つものであって、安易に教師（学級担任）の主観的理解等による一方的な断定で、個人指導の方針をたてるべきではないといえる。特に小学校高学年から中学校、高等学校においては、心理的側面の客観的な原因追求がなければ、治療的指導や不振・不適應解消のための援助指導は難しくなる。

そこで、学級担任が客観的に診断し、指導方針をたてるための心理的要因診断法について、当教育センターで実施している諸検査の中から、そのいくつかを紹介してみたい。

(1) 不適應心理的要因チェックリスト

これは、学業不振児の研究にとりくんでいる医博佐野良五郎氏の430の治療例からつくられた観察診断法で、簡単に子どもの行動特徴から、不振・不適應の原因傾向を見分けられるものである。

リスト中<F項目>は、過保護・過干渉等に扱ったため、依頼心とわがママが生じ、年齢にふさわしい自立心の発達が未成熟で不振・不適應に陥っている子どもたちである。<G項目>は、情緒不安傾向児で、親や教師が発達段階とか性格を無視したり、他と比較したりするあまり、失敗に対する不安と劣等感から不振・不適應を起こしている子どもでもある。<H項目>は、学習習慣が正しく形成されてこなかった子どもたちのタイプである。そのために基礎学力が身につかず学業不振に陥る。これは、家庭における親の教育態度、学校における学習態度

訓練に大きく原因している。

① 調査票（心因的要因）

（土印はどちらともいえない）

	項 目	判 定
F1	がまんすることがきらい。	はい 土 いいえ
2	ぶつぶつひとり言をいう。	はい 土 いいえ
3	自分の思い通りにさせてくれる人としか選ばない。	はい 土 いいえ
4	自分に都合の悪いことは、すぐ他人のせいにする。	はい 土 いいえ
5	同年齢の友達よりも年上か年下の友達と遊ぶのを好む。	はい 土 いいえ
6	誰かそばにいないと、ひとりでは何もできない。	はい 土 いいえ
7	自分の思い通りにならないとすぐ泣く。	はい 土 いいえ
8	自分より何でも上手な友達をきける。	はい 土 いいえ
9	気がすまないといふしなければならぬことでもやらない。	はい 土 いいえ
10	依頼心がつよい。	はい 土 いいえ
F 得 点 合 計		
G11	人の話を聞かない。	はい 土 いいえ
12	用を言ったとき、うわの空でぼんやりしていることが多い。	はい 土 いいえ
13	何事にも注意深く見ようとする。	はい 土 いいえ
14	何事にもとりかかりが速く、いつまでもだらだらしている。	はい 土 いいえ
15	人の好き嫌いがはげしい。	はい 土 いいえ
16	人から注意されると、いつまでもその事にこだわる。	はい 土 いいえ
17	何事にも自信がもてない。	はい 土 いいえ
18	人の前に出ると固くなって思うように言葉がでない。	はい 土 いいえ
19	友だちの悪口を言ったり、けんかをふっかけたりする。	はい 土 いいえ
20	いつも他人のことが気になっていららうことが多い。	はい 土 いいえ
G 得 点 合 計		
H21	勉強するとき、何をやらいつらいつから分らないことが多い。	はい 土 いいえ
22	何事でもおぼえることが苦手である。	はい 土 いいえ
23	ノートに書く文字や数字がひどくらんぼうである。	はい 土 いいえ
24	教科書や本の読み方が、友達にくらべておそい。	はい 土 いいえ
25	勉強以外のことに時間を多くとられる。	はい 土 いいえ
26	復習も予習も毎日はやらない。	はい 土 いいえ
27	何事でも準備なしにゆきあたりぼつたりやる。	はい 土 いいえ
28	生活のリズム（ねる、食事時間など）が日によって変わる。	はい 土 いいえ
29	教科書をよむとき大切な所を考えながら読まない。	はい 土 いいえ
30	勉強の時、いつも好きな字科だけを勉強する。	はい 土 いいえ
H 得 点 合 計		

② 結果の判断

分類	正常範囲	要 注 意	要治療
自立心未発達型(F)	4点未満	4点～6点未満	6点以上
情緒障害型(G)	4点未満	4点～6点未満	6点以上
学習習慣不確立型(H)	5点未満	5点～7点未満	7点以上

※「はい」のみ1点として計算する。

(2) 性格・適応状態の検査

① Y・G性格検査

これは、アメリカの心理学者ギルフォード氏らの考案による3種の検査法をモデルとして、矢田部達郎氏らがつくった日本の代表的な質問形式の性格検査である。抑うつ性・劣等感・神経質・協調性・活動性等12の性格特性の判断と、性格上の問題点は握や個人理解に役立つ検査である。

② F A T（学力向上要因診断検査）

東京教育大学、松原達也氏他編によるもので、精神的健康度、身体的健康度、友人教師関係、学習意欲等8領